

奈良市洪水ハザードマップ

N A R A - C I T Y H A Z A R D M A P

トップに戻る



奈良市全域

拡大

縮小



Copyright 2009 Nara city. ALL Rights Reserved



第1期
失見当期

被害の把握
救命・救助



10時間

第2期
災害社会の形成期

避難所の開設
疎開



100時間(約4日)

第3期
被災地社会が
維持される時期
(災害ユートピア)

避難所
ボランティア



1000時間(約42日)

第4期
現実への帰還の時期

仮設住宅
自立再建



10000時間(約1.1年)

第5期
すまい・復興

災害復興公営住宅
まちづくり



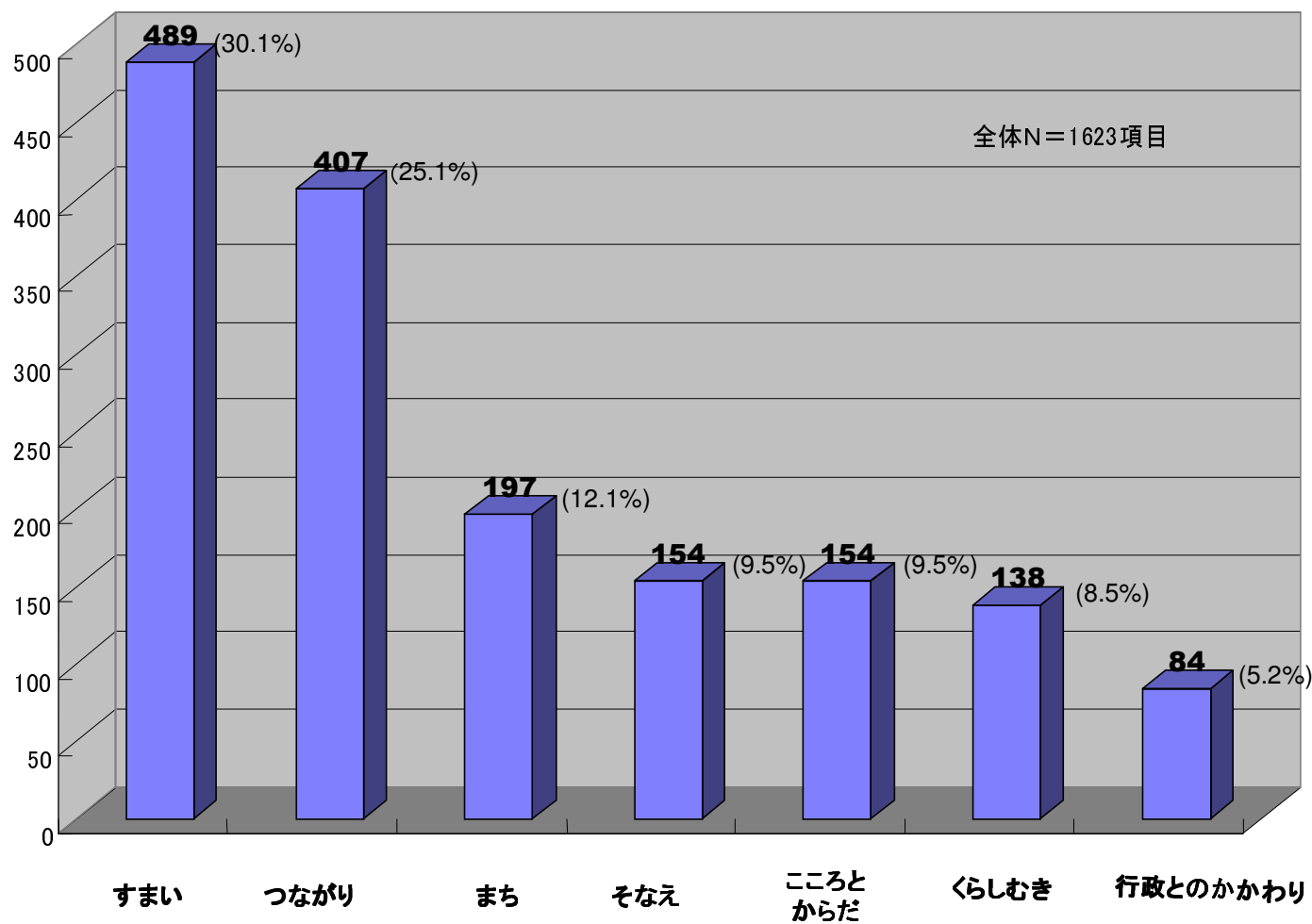
100000時間(約11.4年)

時間

復興の度合い

復興とは何か

生活再建の実感分野別カード枚数



**災害は立ち向かうにはどうすれば良
いのか？**

危機管理はどうすれば良いのか
「彼を知り己を知れば、百戦して殆うからず」
(孫子の兵法)

1)何を守るのか

2)敵を知り、想定される被害を明らかにする。

3)予想される被害にどう立ち向かうのかを考える。

1)何を守るのか

- 大切なものを書き出してみる。**

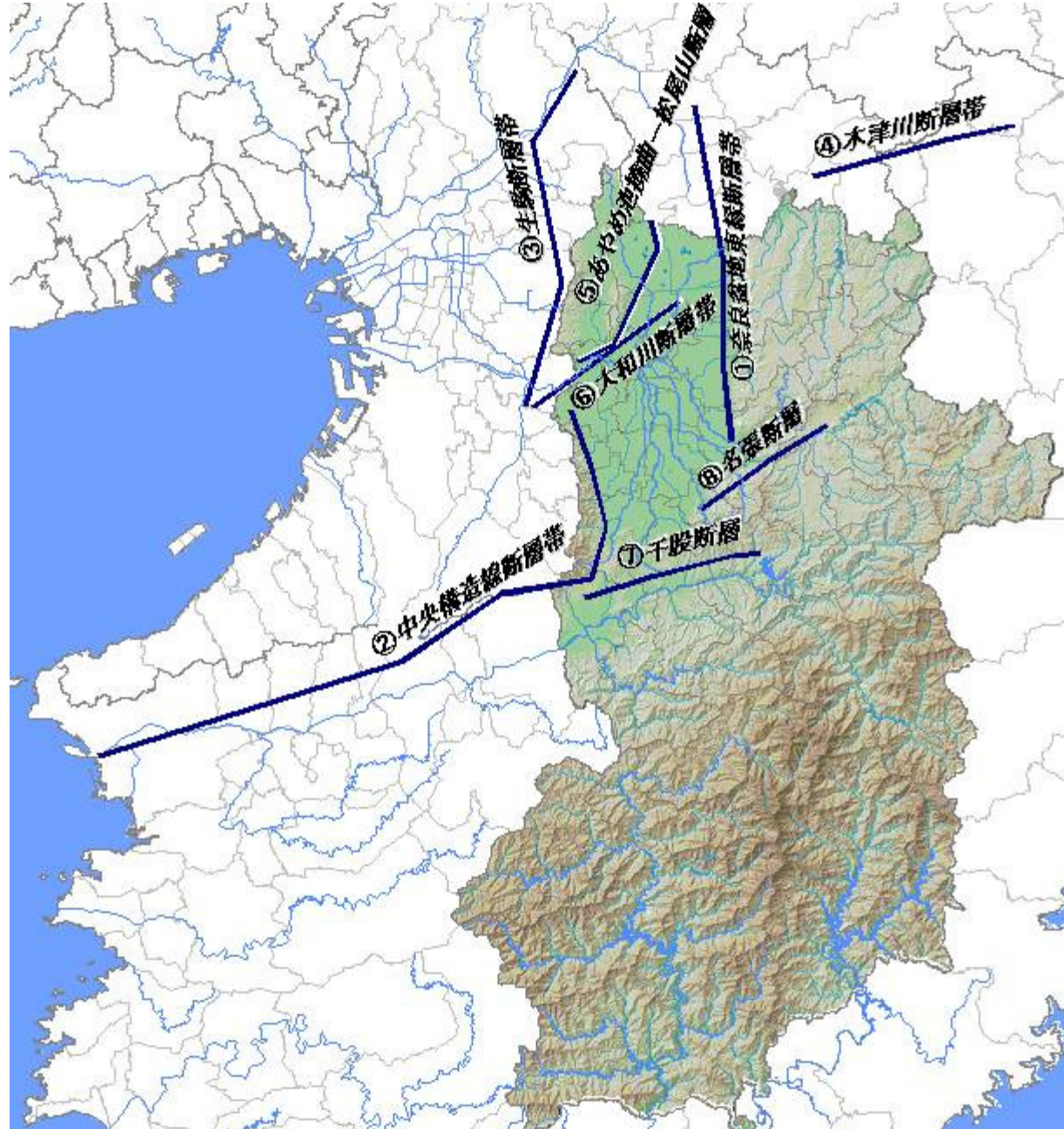
**2)敵を知り、想定される被害を
明らかにする。**

被害 = 外力(地震の強さ) × 脆弱性(=防災力)

敵を知る

たとえば地震防災

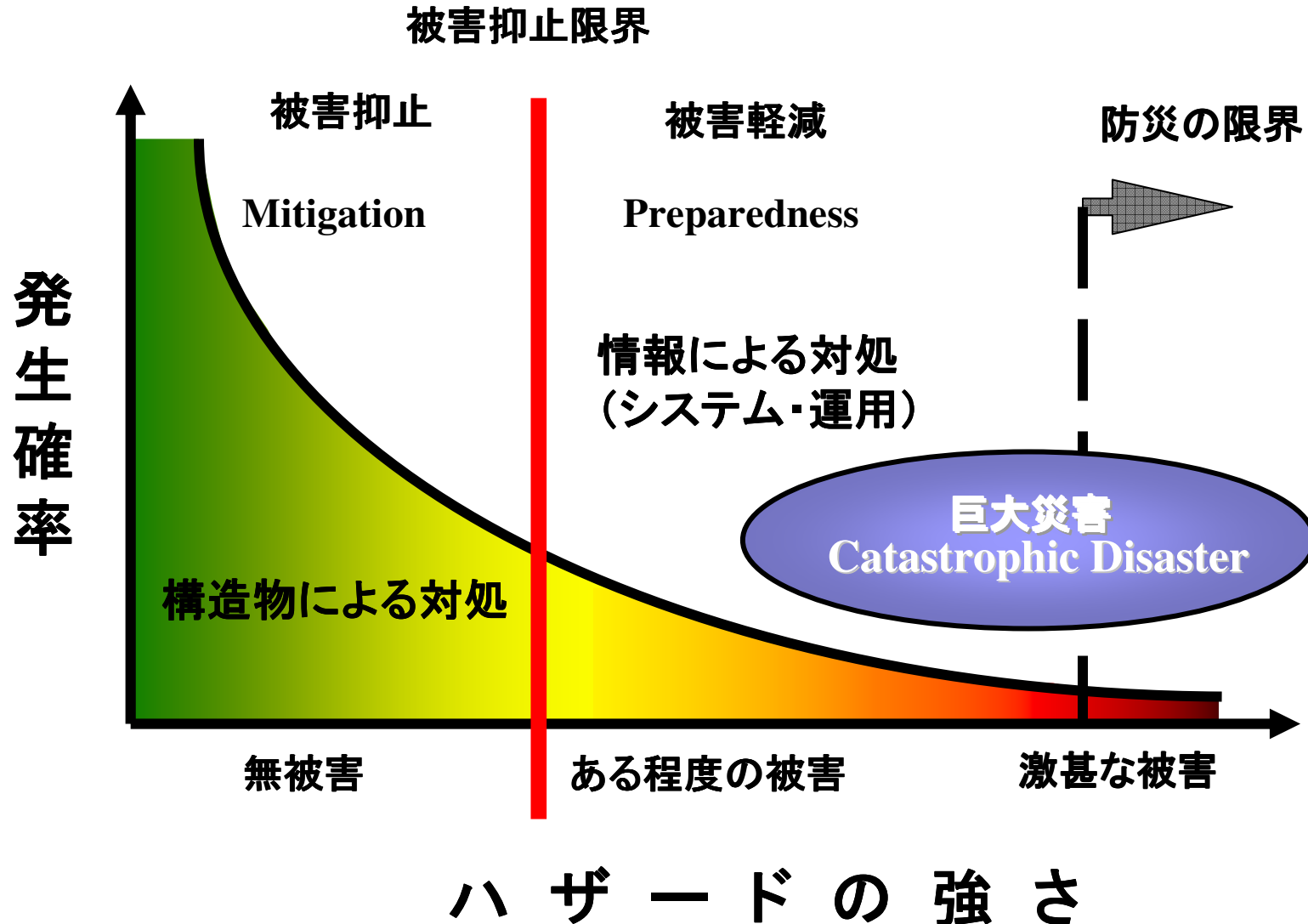
奈良の敵



3) 予想される被害にどう立ち向かうのかを考える。

- 被害を出さないための対策**
- 被害を最小限に食い止めるための対策**

被害抑止と被害軽減



災害リスクとつきあう4つの方法

		検討対象	
		自然現象	社会現象
目的	被害抑止	軽減 (risk reduction) 建物の耐力向上	回避 (risk avoidance) 都市・地域計画
	被害軽減	転嫁 (risk transference) 保険・共済制度	受容 (risk acceptance) 災害対応

被害を出さないための対策「軽減」

自助：すまいの耐震補強

共助：災害に強いまちづくり(都市計画)

公助：堤防の嵩上げ

(通常はこれで大抵防げる)

命を守る(梅)

- 2階でねる。
- 家具を置かない。
- 最低限の耐震改修



財産を守る(竹)

- 耐震改修をする。
- 住まいのリフォームと一緒に
＜老後の備え＞

すじかい

壁補強(荒壁パネル)



生活を守る(松)

免震

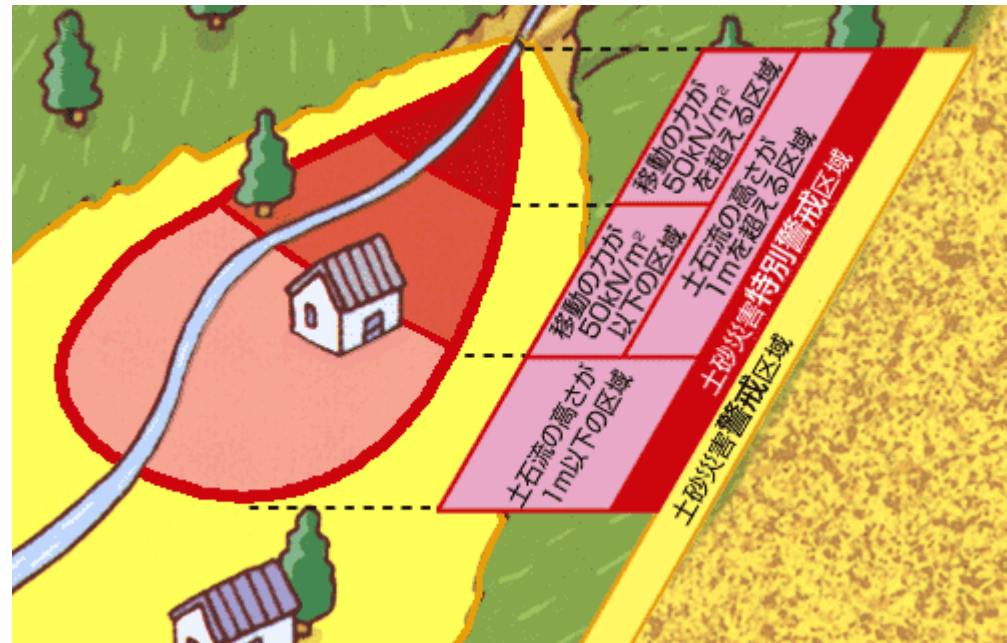


被害を出さないための対策「回避」

自助：自然災害の危険の低いところへ移転する

共助：地域で安全な場所に移転する(防災集団移転)

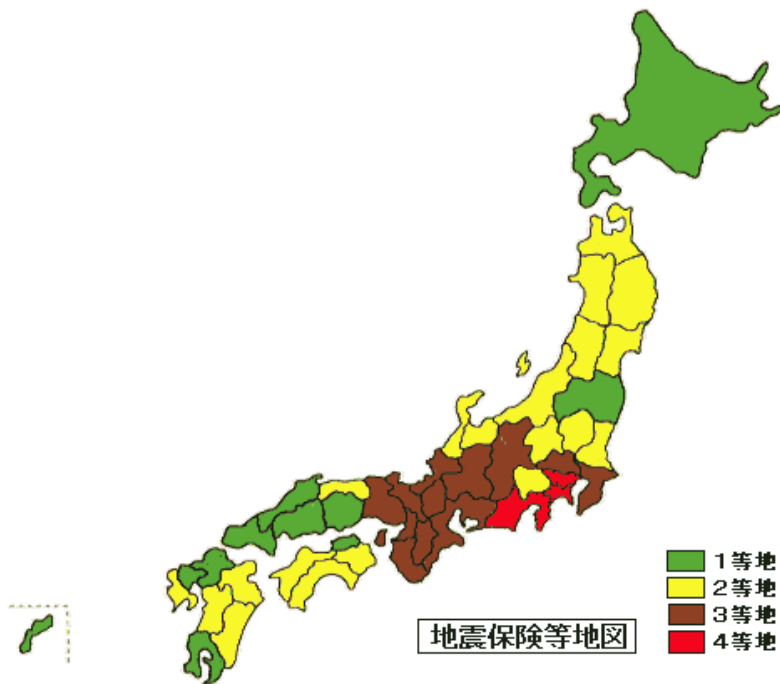
公助：土地利用規制(土砂災害警戒区域)



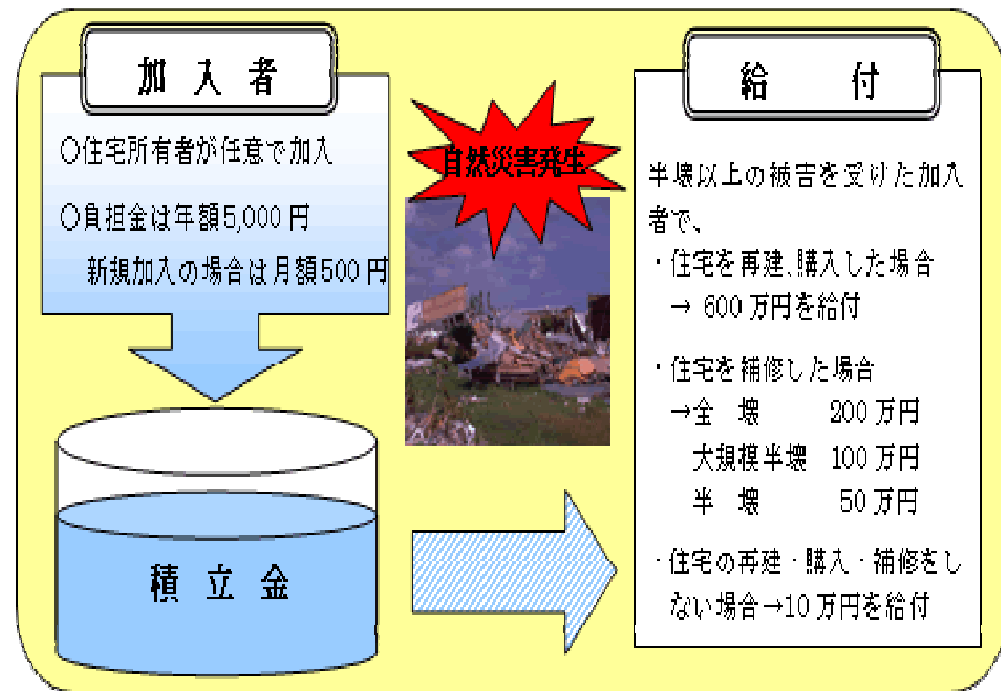
被害軽減「転嫁」

地震保険

建物5千万円、家財1千万円限度
火災保険の30%~50%



災害共済(兵庫県)



被害軽減対策「受容」

自助：非常用持ち出し袋、避難

共助：防災機器の備蓄

公助：消防、警察、自衛隊、防災対策部局

ボール、スコップ、ジャッキ、ノコ、オノ、布バケツなどの整備をします。



じぶんで備える（そなえる）



（出典：東京都葛飾福祉工場ホームページ、<http://www.fireman21.net/>）

地域でつくる防災計画

地域でワークショップを開催してみる。

- ・ **Step1 地域を知る。**

守るべきもの、危険箇所、防災資源等を地図上にプロットする。

—地域にとって重要なものは何？

—地域の危険箇所は？

—災害時に助けを必要とする人は？

—避難所はどこ？



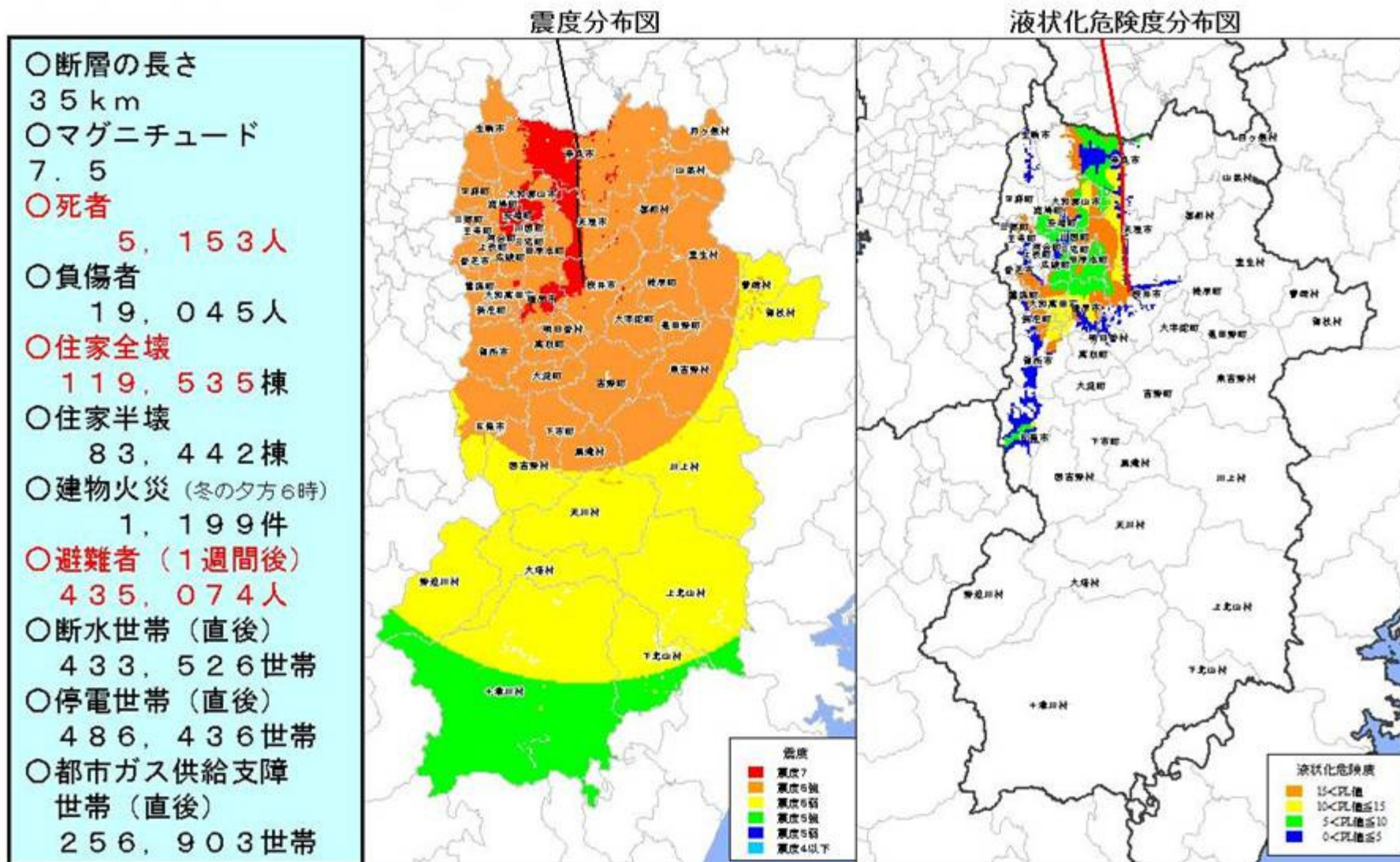
地域の資源

- 学校
- 商店街
- 病院
- 文化財
- ……

- ・ **Step2 被害想定を行う。(敵を知る)**
行政の被害想定に基づき、Step1でプロットしたモノ、場所にどういった被害が発生するのかを考える。

3. 揺れと液状化

(1) 奈良盆地東縁断層帯



※ PL値：液状化の危険度を評価する指標で、PL値が大きいほど液状化の危険度が大。

- ・ **Step3 被害にどう対処するのかを考える**

カードに書いて、グルーピングする。



- ・ **Step4 アクションプランを作成する。**
実現可能性を考慮し、いつ(1年以内、3年以内、5年以内)、誰かを明確にしたアクションプランを決定する。

市民防災行動計画の作成



いろいろな情報を入れよう

- 消火器の設置場所
- 公衆電話の設置場所
- 防災器具庫の位置
- 川・池・井戸 (水のある場所)
- 学校、公園などの避難場所
- 消防署、警察署 (公共機関)
- その他 (高齢者の住居など)

危機管理はどうすれば良いのか

1) 何を守るのか

2) 敵を知り、想定される被害を明らかにする。

「彼を知り己を知れば、百戦して殆うからず」

(孫子の兵法)

3) 予想される被害にどう立ち向かうのかを考える。

自宅で、地域で、そしてまちとして。